

戦後～現代・・・そして取り残される人たち ～生活相談の活動から～



八月が今年もやってきました。子どもたちにとっては楽しい夏休みですが、戦争の歴史を振り返らなければならない八月でもあります。戦没者の数だけでも240万人や310万人と、国の発表でも大きく異なることがあり、その実数は未だ不明であるといわざるを得ません。戦争での災禍や被爆の後遺症は、現在も多くの人々を苦しめています。こうして、あつてはならない数え切れない多くの犠牲の上に始まった「戦後」は、経済中心の豊かさを今でも世界に誇り、「戦後は終わった」と大きな声で喧伝する人たちもいます。

しかし、確かに物質的な豊かさを享受する人々が増える一方、その裏側では豊かさから取り残された人々もいたのです。特に、バブル崩壊後の新自由主義経済とグローバル経済の中では、明らかに「生活格差の拡大」という形で「取り残される人たち」が増えていきました。世界の中での格差も、日本の中での格差も、もう埋めることのできないところまで進行し、開き直ったかのように、格差を是とするムードも高まってきています。

日本にいる外国人労働者も「取り残される側」に常にいます。言葉の問題がいつも強調されて、安くてきつい労働を強いられる立場におかれているのが現状です。この頃「人手不足倒産」の声が聞かれます。日本の労働人口の減少によるものですが、この労働人口減少の話が出ると、必ず外国人労働者受け入れが浮上してきます。まして、「夢よもう一度」とばかりに産業界が過熱している東京オリンピックを前に、様々な「労働と格差をめぐる問題」が表面化し、その中に外国人労働者の問題も立ち上がってくるのではないかと危惧せざるを得ません。

ところで、Ed.ベンチャーでは、外国人の大人のための「生活相談」活動も行っています。教育支援に特化したNPOのはずなのに、なぜ生活相談を掲げているのかと疑問に思うかもしれません。上に述べたように、外国人の子どもたちの家庭は、格差の中で「取り残される」側にいます。日本語がうまく話せないので受けられる行政サービスも申し出ないままであったり、つつい便利だと思って借りたカードローンの返済に苦しんでいたりと、体の具合が悪いけれど、病院に行って上手に受診できないから行かないなど、様々な不利益を受けており、こうした家庭の状況がすべて子どもたちに跳ね返っていくのです。ですから、子どもたちを支えるために、大人を支えなければなりません。

生活相談の活動は地味な活動です。相談の内容をひとつひとつ聞いて、スタッフで相談して対応を決めます。相談ケースは一定期間継続的に取り組まないと出口は見えてきません。生活相談のスタッフたちは、寄り添うようにして、様々な場所に付き添い、代弁し、助言します。今回はそんな活動の一端を紹介しておきます。5～6月の活動メモです。

◇継続ケース1 (病院の付き添い)

- 5/12 病院付き添い(定期予約) 5/14 移植手術に付き添う
5/23 結果がわかる予定だったが、今回は残念ながら可能性なしとのこと

6/1 体外受精制度を受ける事務手続きを行う

◇継続ケース2(手術後の通院付き添い)

6/21 徳洲会病院に予約。付添の約束をする

継続ケース3(健康診断への付き添い)

6/10 会社の健康診断の会場が「みなとみらい」と遠いが、毎年行っている今年は何とか一人で行かれるようにと考えたが、無理と判断。付き添うことになった。

◇継続ケース4(ホームレスの方々のその後)

5/2 保護費受け取りに付き添う(Vさん)

(Cさん) 横浜刑務所にいます。薬物使用で実刑を受けたとのこと。仮釈放される見通しですが、保護司官が対応してくれそうです。

◆新規ケース(確定申告支援)

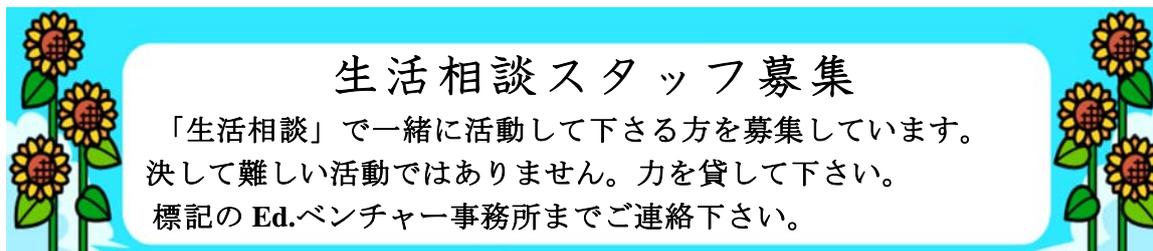
4/27 扶養申告の書類のチェック

5/13 大和税務署に申告付き添い

こうしてあらためて活動を見てみると、外国人の人たちが、何気ない毎日の生活にその支援を必要としていることがよくわかります。親が日本語がわからないので、役所には子どもを連れて行って通訳をさせる。そのために子どもはその日は学校を休む・・・などの事例はよく出会います。子どもが行って何とかなればまだしも、結局は要を得ないことの方が多いようです。

生活相談スタッフは、Ed.ベンチャーの「大人のための日本語教室」まで出かけて行って「出張相談受付」を行っています。また、月に1~2度は、スタッフの打ち合わせを事務所で行っています。

「取り残された」外国人の人たちの少しでも役に立てれば・・・という思いで、スタッフは地味な活動を続けているのです。



生活相談スタッフ募集
「生活相談」で一緒に活動して下さる方を募集しています。
決して難しい活動ではありません。力を貸して下さい。
標記のEd.ベンチャー事務所までご連絡下さい。

お知らせコーナー

◇理論学習会の予定◇

8月25日(月) 18:00~ 映画「SAYAMA みえない手錠をはずすまで」上映会

10月20日(月) 19:15~ 『つながり格差』が学力格差を生む(亜紀書房) 講読会

11月26日(水) 19:15~ 著者“志水宏吉教授”(大阪大学大学院)を招いての講演会

※会場はすべて富士見文化会館

※本の購入を希望される方は、担当池田までご連絡ください。(090-3535-1795)

理事の独り言

すたんどばいみーのキャンプを見ていて思ったこと。人間が社会を構成するパーツの一つに過ぎないとしたら、議論されるのは個々のパーツがその社会を構成するに適か不適かかってことになるけど、凸凹のパーツが集まって、はじめて社会ができるのだとしたら、議論されるのは社会のかたちそのものなんだ。当たり前なことだけど、適か不適かに拘るのは、余りに本質からズレている。(1)